1. 網走市老人クラブ連合会

「助けられる高齢者」から「助け合う高齢者」へ 一友愛会員による支え合い活動の取り組み―

■網走市老連の概況(平成30年4月1日現在)

○クラブ数:39クラブ 会員数:1,816名 ※男女比 男 44.2% 女 55.8%

〇組織構成:会長、副会長3人(内女性1人)

総務組織部会、教養部会、保健福祉部会、レクリエーション部会、女性部会

〇主な事業(友愛活動関連)

- ・認知症サポーター養成
- 地域包括支援センターと協力し問題の早期発見
- 老人福祉施設への芸能慰問活動
- 友愛一円玉募金
- ・友愛雑巾・タオルの学校、施設への寄贈
- 社協の「第6期地域福祉実施計画」の参画、協力
- ・町内会活動を通じ、災害時の地域の安全確認の協力 等

■友愛活動のあゆみ

〇平成 24 年度~

「助け合う高齢者推進運動」の実施

- 友愛訪問について、総会や一泊研修会等で単位クラブに呼びかけ
- ・あんしん連絡網で災害や犯罪情報の連絡・地域防災訓練の参加・安心カードの携帯など *参照「助け合う高齢者推進運動事業」

〇平成 26~27 年度

北海道老人クラブ連合会「高齢者相互支援推進・啓発事業」モデル指定を契機に、「友愛会員」による活動の取り組み。

〇平成28年度以降

網走市より助成を受け、網走市老連の単独事業として継続。

く参照>

助け合う高齢者推進運動事業

<目的>

超高齢化社会に向かって、現在の「助けられる高齢者から」のイメージを払拭し、 会員同士が助け合い活動を行う「助け合う高齢者」に変っていくために、在宅福祉 を支える友愛活動の事業の制定や、事業を行うために実施方法などについて各部会 への検討を付託し、長期的に運動の推進をする。

<事業内容>

(1) 会員同士の助け合い活動

会員同士の助け合い活動を通じて、孤立化や災害時及び犯罪等の被害の防止に 努めます。

- ①外出が難しい会員や独居・高齢者世帯会員への友愛訪問の実施を単位クラブに 呼びかけます。
- ②生活や介護、健康に不安がある会員がいる時には、民生委員や地域包括支援センターに連絡して、問題の早期発見に努めます。
- ③「あんしん連絡網」を作り、災害情報・犯罪情報などの情報連絡を行います。
- ④単位クラブで会員の相談や支援を行える人(友愛会員)の育成に努めます。
- ⑤まさかの事態に備えて「救急救命講習会」を開き、受講の呼びかけを行っています。

(2) 自分の身を守るための活動

会員が自分の身を守るための研修会や啓発活動を行っていきます。

- ①防災や犯罪等に関する研修の開催または、参加を呼びかけます。
- ②市や地域で行われる防災訓練への参加を呼びかけます。
- ③市が主催の健康づくりや介護予防に関する取り組みに参加を呼びかけます。

1. 新しい会員同士の助け合い運動 ~友愛会員制度~

この制度は、網走市老連「助け合う高齢者推進運動」の一つとして、会員同士の助け合いを行うための新しい取り組みです。

老人クラブの中に、その中心として活動する「友愛会員」を置き、困っている仲間の手助けをします。

(1) 友愛会員とは

- 〇健康で、市老連設定の「普通救命講習」 「認知症サポーター」「初級ボランティア講座」(友愛会員講習会)を受講 し、市老連会長が認定した方(認定書 と友愛会員証の交付)
- ○自分が所属するクラブ会員の生活や 福祉、健康などの「良き相談相手」「世 話焼き役」となる方
- 〇時には、会員の困りごとを民生委員や 地域包括支援センター警察などに伝 えながら解決を図る方





⇒具体的な活動

- ・例会に休みがちな方へ声かけ、立ち寄り、電話かけをする
- 気になる方のところへ訪問して、話し相手をしながら・・・
- 困りごとの相談に応じ、できることはしてあげる

(2) 友愛会員の選定

1人の友愛会員が目配り、気配りできる範囲として、10人の会員に対して1名の設置を目安とする。なお、会員数に端数がある場合の友愛会員数の増員は単位クラブの任意とする。

	友愛活動実施クラブ	友愛会員養成人数	
平成 26 年度	5クラブ	39名	
平成 27 年度	4クラブ	33名	
平成 28 年度	3 クラブ	16名(退会2名)	
平成 29 年度	2 クラブ	12名(退会1名)	
<u></u>	1 4クラブ	97名	
		【内訳】:友愛活動実施86名 その他11名	

※「その他」とは、友愛活動を実施してないが、本人またはクラブの希望により研修を受けて友愛会員の認定を受けた、市老連理事及び単位クラブ会員の数。

平成26年度(初年度)の取り組み

く市老連>

- (1) 実践までの取り組み
 - 〇総務組織部会(部会員10名、正副会長4名)における検討5回
 - 〇単位クラブ説明会(参加者数70名)
- (2) 友愛会員講習会(平成26年9月25日開催)

対象:モデルクラブの友愛会員候補者、市老連役員(参加者数41名)

時間:1日研修 9:30~15:30

内容:「友愛会員制度」の説明

講座①初級ボランティア講座(社協)

講座②認知症サポーター養成講座(市認知症介護研究会)

講座③救急救命講習(消防署)

認定書 • 友愛会員証交付

(3) 友愛会員実践交流会の開催(平成27年1月22日開催)

対象: 友愛会員

参加者数: 友愛会員27名、他に市老連理事12名 計39名

→友愛会員25名、市老連理事など12名 計37名

くモデルクラブ> 5 クラブ/期間: 平成26年10月~平成27年3月

(1)活動状況

※モデル単位クラブから市老連へ毎月提出されている活動報告書を基に集計

- ○活動回数 延べ693回
- 〇活動人数 友愛会員27人
- ○活動形態 ・訪 問 延べ229回 ・電 話 延べ452回
 - その他12回
 - ◇訪問の内訳
 - 〇対象者内訳(延べ数)

独居155回、認知症11回、その他63回

- 〇内容(重複、延べ数)
 - 安否確認 447回 ・話し相手 202回 ・相談など 7回
 - ・その他(送迎、除雪、行事の誘いなど)103回
- (2) 実践を通じて~友愛会員懇談会「活動情報交換」より

く良かったこと>

- (友愛会員の) 認定書をもらったことで、活動しやすくなった。
- ・声かけをすることで、今回の例会は100%に近い出席率であった。
- 欠席がちな会員の安否確認ができるようになった。

<地域の課題>

- 認知症の方が、夜中に車の往来が激しいところに外出するので、友愛会員から地域の方に話し、地域全体で様子を見守るようにしている。
- ・ 独居高齢者の除雪、買い物困難など、地域全体の問題として考える必要がある。
- 高齢者同士が助け合うには多くのことを期待できない。若い高齢者、やがては町内会等、地域ぐるみでこの問題を考えるきっかけにしたい。

くその他>

- 本人の自立心を損なうことのないよう友愛活動を進めることが大切。
- 家族と同居していても日中話し相手がなく、認知症になりそうな会員もいる。
- 車の送迎について、善意での支援をどうしたらよいか。
- 解決の難しい問題は、市役所、社協、警察などへすぐにつなぐ。

2. 事業に係る予算について

〇平成27年度

収入:北海道老連高齢者相互支援モデル事業の助成費 20万円/単年度。

支出:研修会に係る会場代、講師旅費、謝金、安心カード、会員証印刷代をど。

3. 地域関係者とのつながり

- 〇網走市地域福祉会議の構成団体(老人クラブ、町内会、民生委員、市、地域包括支援センター、社協)に、友愛会員制度について会議等で報告。
- 〇今年度の友愛会員懇談会(12月17日開催)には、網走市町内会連合会正副会長、民生委員児童委員連盟網走市支部長・事務局長、地域包括支援センターを招いて開催。
- 〇単位クラブの中には、会員で民生委員、町内会役員の者が、友愛会員として活動していると ころもある。
- ○その他
 - ・網走市第6期高齢者保健福祉計画、介護保険事業計画。(平成27年度~29年度) 及び網走市社会福祉協議会第6期地域福祉実践計画にも老人クラブの役割が明記されている。(網走市における新地域支援事業の開始は平成29年度より実施)

4. 今後の取り組み

- 〇平成34年度までに全クラブに友愛会員を配置予定。
- ○平成28年度より網走市から助成を受け、網走市老連の単独事業として継続。

平成30年現在

友愛会員14クラブに92名

現在はクラブ会員を対象に活動が行われているが、自然な流れとして会員以外の人々にも救いの手が伸びておりそれにより会員の増加にもつながっている。個人情報の扱いについては、特別の注意を払いつつ、経験の集積によって、よりよい活動に結びつけて行きたい。

網走市老人クラブ連合会 友愛会員設置要綱

第 1 条 (目的)

網 走 市 老 人 クラブ連 合 会 は、会 員 の中 で特 に他 者 への支 援 に長 けた者 を「友 愛 会 員」として認 定 し、会 員 相 互 の助 け合 いを推 進 する。

第2条(友愛会員の活動)

友愛会員は、単位老人クラブ(以下「単位クラブ」という。)において次の活動を行う。

- (1) 会員の生活や福祉、健康に関する相談・助言及び支援
- (2) 会員の生活や福祉、健康に関する問題を発見し、必要に応じて民生委員や警察、地域包括支援センター等に相談又は情報提供を行う。
- (3) 会員の生活や福祉、健康に関する行政や関係機関・団体への協力
- (4) その他、会員の生活や福祉、健康に関する支援

第3条(友愛会員の要件)

友愛会員は、単位クラブ会員(正会員・賛助会員を問わない。)のうち、次のすべての要件に該当する者とする。

- (1) 「普通救命講習」を受講した者
- (2) 「認知症サポーター養成講座」を受講した者
- (3) 社会福祉協議会が開催する「初級ボランティア講座」を受講した者

第4条(友愛会員の設置の目安)

友愛会員は、単位クラブの会員 10名に対して1名を設置の目安とする。なお、単位クラブ会員数に端数がある場合、友愛会員の増員の判断は単位クラブの任意とする。

第 5条(友愛会員の認定申し込み)

友愛会員の認定を希望する会員は、様式第1号の「網走市老人クラブ連合会友愛会員認定申込書」を会長に提出しなければならない。

第6条(友愛会員の認定)

会長は、前条の申し込みがあり、第3条の要件に該当する者と認める時は友愛会員として認定する。

- 2 会長は、友愛会員の認定を行った者に対して認定証及び様式第2号の「網走市老人クラブ連合会友愛会員証」を交付する。
- 3 会長は、友愛会員の認定を行った時は、様式第3号の「網走市老人クラブ連合会友愛会員登録簿」に登録しなければならない。

第7条(友愛会員の登録事項変更の届出)

友愛会員は、所属クラブ、住所、氏名及び連絡先に変更があったときは、速やかに会長に申し出なければならない。

第8条(友愛会員の資格喪失)

友愛会員は、次の各号に掲げる事項に該当する場合は、友愛会員の資格を喪失する。

- (1) 単位クラブを退会したとき
- (2) 本人の申し出により会長が承認したとき
- (3) 本人が死亡したとき
- (4) その他、会長が友愛会員として不適切と判断するとき

第9条(友愛会員への支援)

会長は、友愛会員に対し、必要に応じて次の支援を行う。

- (1) 友愛会員を対象とした研修会や懇談会の開催
- (2) 友愛会員の活動に必要な各種の情報提供
- (3) 友愛会員の活動及び会員の諸問題に関する対策の検討・実施
- (4) その他、友愛会員の活動に必要な支援

第 10 条(秘密保持)

友愛会員は、活動中に知り得た個人の情報を、当事者の許可なく他に漏らしてはならない。会員を退いた後においても同様とする。

第 11 条

その他、必要な事項は会長が別に定める。

附 則

この要綱は、平成28年 4月19日から施行する。

網走市老人クラブ連合会 「友愛会員制度」事業

1. 網走市老人クラブ連合会「友愛会員制度事業」概要

平成26年度~平成27年度の2ヶ年、北海道老人クラブ連合会のモデル事業「高齢者相互支援推進・啓発事業」を受け、網走市老人クラブ連合会が実施する「助け合う高齢者推進運動」の新たな取り組みとして、老人クラブ会員同士の助け合いを推進することを目的に、単位老人クラブ毎に会員の生活や福祉、健康問題に関する相談支援を担う会員(「友愛会員」)を養成・配置する本事業を実施。

友愛会員は、所属するクラブ会員の日常的な相談役となり友愛活動を実施し、時には会員の困りごとを民生委員や地域包括支援センター、警察などの関係機関と連携して解決の手助けを行う。

平成28年度からは市老連の単独事業として網走市より助成を受け継続し、将来的にはクラブ会員以外の高齢者へも活動を広げ、老人クラブの地域における社会的な役割へとつなげていく。

2. 網走市老人クラブ連合会「友愛会員制度事業」計画

- ●全単位クラブへの友愛会員設置を目標とする。
- ●友愛会員の数は、単位クラブ内で1人の友愛会員が目配り・気配りができる範囲として、単位クラブ会員10人に対して1名を設置の目安とする。なお、会員数に端数がある場合の友愛会員の増員の判断は単位クラブの任意とする。
- ●将来的には、現在の「クラブ内活動」から「クラブ外(まち)の活動」にも展開する。

●平成 27 年度 市老連会員数 2,002 名×1/10=友愛会員養成人数 200 名

年度	友愛会員設置クラブ数	友愛会員養成人数
平成26~29年度	友愛活動実施クラブ 14クラブ 友愛会員設置クラブ 12クラブ	友愛活動実施クラブ 86名 友愛会員設置クラブ 11名
平成31~34年度	各3クラブ	3 0 名以内
計	3 9 クラブ	200名

友(愛(会(員)制(度(概(略

【目的】

会員同士の助け合いを推進することを目的としています。

この活動を通じて、高齢者同士助け合い、いつまでも住み慣れた地域で、安心して暮らせるような地域づくりを目指します。

【友愛会員の役割】

友愛会員は、所属するクラブの会員「良き相談役」「世話焼き役」です。

気になる方への声かけ等をお願い致します。また、会員の困りごとがあれば、地域包括支援センターや民生委員などと協力し、解決の手助けを行います。

【友愛活動内容】

- ○例会に来ていない方への声かけや 電話
- ○クラブで気になる方への訪問や 話し相手
- ○困りごと相談や 簡単なお手伝い





【友愛会員になるには】

友愛会員講習会を受講した会員が友愛会員に認定されます。



救命講習

AED



認知症サポーター 養成講座

講座を受講



ボランティア 講座 講座終了

認定

市老連会長 が認定



友愛会員証 交付

【友愛活動の流れ】

友愛会員は活動を行った後、活動記録票を作成。代表者が取りまとめて市老連へ提出。



友 愛 活 動 の 例

友愛活動を実施しているクラブでは、次のような活動を行っております。

【電話】

- ○例会の日を忘れがちな方へ、前もって連絡し、例会に出席してもらう。
- ○例会に欠席した方に、例会で話し合ったことを報告している。
- ○クラブの中の気になる方へ、電話で行事のお誘いをしている。
- ○ひとり暮らしの方のところへ吹雪や天候が悪い時などに 困っていることが無いか電話をしている。



【声かけ】

- ○例会の時に、気になる方へ声かけをしている。
- ○買い物の時や、街であったときに声をかけている。





【訪問】

- ○例会で配られた資料を持って訪問する。
- ○時々、訪問して話し相手になっている。
- ○例会の時に迎えに行き、一緒に行っている。
- ○施設へ入所された会員の ところへ時々訪問している。









【その他】

○例会に来られない方へ手紙やハガキで クラブの近況を伝えている。





2015年(平成27年) 月23日倫 1

加小

市エコーセンターで開 員」の懇談会が22日、

ついて話し合うことに 部会で来年度の活動に

している。

れた結果を元に、担当

同会は懇談会で示さ

話役を務める「友愛会 他の会員の相談役、世 る、各単位クラブ内で 年度から取り組んでい |磯江良三会長| が今 市老人クラブ連合会 かれた。 一会のねらい。友愛会員 市老連友愛会員が懇談会 の認定を受けた約30人 題を共有するのが懇談 する中での問題点、課 友愛会員として活動

と同会の役員ら、合わ せて約40人が参加した。 点、問題点や課題など された後、同会が事前 を報告した。 活動の状況、良かった にアンケート調査した 記入方法について説明 する「活動記録票」の 会員活動の内容を記録 同会事務局から友愛

どが挙げられた。 来た」「欠席がちの安否 確認が出来るようにな ことがない人と話が出 では「今まで会話した 気が明るくなった」な 加しなかった人も気軽 に参加し、全体の雰囲 た」「あまり行事に参 このうち良かった点 方、問題点や課題 を受けたことから、 年度までの2カ年で同 から、助け合う高齢者 る「助けられる高齢者 発事業」のモデル指定 齡者相互支援推進·啓 人クラブ連合会の「高 会員」制度を発案。来 取り組みとして「友愛 へ」を実現するための の目標のひとつでもあ 同会は今年度、道老

か苦慮している」「困り の程度まで介助すべき の危険行動に対し、ど ことを相談されても、 友愛会員活動の問題点 会員を養成、助け合い 定。同会の講習を受け の仕組みを構築する。 人クラブのうち、モデ ルとして5クラブを指 今年度は加盟する老

では、認知症ぎみの会員

や課題などを話し合った

|た約30人を「友愛会員」

に認定し、昨年11月か

発表した。 どを活発に議論。グル ープごとにその結果を 点についての解決策な いかなどが挙げられた。 たず、双方にあきらめ 結局は解決のめどが立 わってしまうのではな ムードが漂うままに終 懇談では、これらの

ら活動を始めている。 えた」と、友愛会員の を取り上げ研究してい 市老連でもできること 社会のテーマでもあり、 うことは、これからの 活動に期待している。 こうと、この制度を考 磯江会長は「助け合

VSで問題

市老連 友愛会員の懇談会

)経験などを報告



ことや困った た後、友愛活動で経験 した良かったこと、困 出席者約60人が10人ず ショップ (WS) 方式 の意義や同日のワーク について説明した後、

班に分かれて友愛活動の良かった 席者たち ったことを発表し合い、

つ6班に分かれて懇談

WSで自己紹介をし

き、友愛活動の推進を で友愛会員懇談会を開 日、市エコーセンター | が会員の生活、健康な (磯江良三会長) は2 | 支え合う目的で、会員 市老人クラブ連合会 | 人クラブの会員同士が 安否を確認して孤立死 どの相談に乗りながら を防ぐ狙いがある。

友愛活動は、単位老

懇談会では、磯江会 じて仲良くなった③安 らえた②普段話せなか 掛けて訪問し喜んでも こととしては①電話を 解決策を探った。 った人と友愛活動を通 この中で、良かった

だきたい」とあいさつ。 きない活動がある。住 うに、高齢者にしかで 全うできるように地域 み慣れた地域で一生を 長が「友愛会活動のよ つくりにご理解をいた 事務局員が友愛会員 た。

|合って信頼関係ができ||ープホーム(GH)に |たーなどの意見があっ|入り、そのGHに会い して①認知症の人に対 半面、困ったことと

き、各グループから報 告して、対応策などを 話し合った。

|否確認ができた④話し|い②会員の一人がグル する接し方が分からな 守が多い―などの問題 えない④訪問しても留 友愛会員がなかなか増 に行くのに苦労した③ を指摘していた。 最後に、全体会を開 (俵衙)